



南町小だより

練馬区立南町小学校

令和5年 5月31日

校長 星美登里

つよく かしこく あたたかく
～ ありがとうございます とどけます ～



声をかけ合い、車山登山に挑戦した6年生

「共に生きる」体験

～子どもたち同士の交流～

校長 星美登里

5月8日(月)から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行となり、子どもたちの学校生活も制限が大幅に緩和されました。一番嬉しいことは、子どもたち同士の交流の機会が戻ってきたことです。

翌5月9日(火)から11日(木)まで、6年生と武石移動教室に行ってきました。青空の下での飯ごう炊さんから始まった移動教室で、子どもたちは4つの「あ」(挨拶・集まり・後始末・安全)を意識して行動していました。「集まり」は班のみんなで声を掛け合い、5分前には集合ができていました。私は「5年生の時よりも見通しをもって行動ができるようになったなあ」と感心していました。しかし、夜の班長会で一日の振り返りをしたとき、「集まり」がよくなかったことが話題となりました。「5分前行動はできたけど、集合して活動が始まっているのにおしゃべりを続けていたことがあった」というのです。子どもたちはよりよい「集まり」にしたいと感じていたので、そこで、「集合したらおしゃべりをやめて始まるのを待とう」と班のメンバーに話すことにしました。3日目の出発前の荷物整理と掃除は、班のメンバーと一緒にてきぱきと手際よく行っていました。出発まで少しゆっくりできて部屋で遊べる余裕ができたほどです。このように、様々な場面で友達と協力してよりよい生活を創る姿が見られ、成長を感じました。

話は変わりますが、移動教室の前後に、3・4年生の遠足や1・2年生の「学校案内」と遠足がありました。いずれも上の学年の子どもたちが後輩たちに優しく話しかけ、仲良くしようと心掛け、下の学年の子どもたちの笑顔があふれている場面がたくさん見られました。お世話する学年もお世話される学年も、子どもたちは楽しい時間を過ごしていました。

5月19日(金)には、1年生から6年生までの全学年によるふれあい班活動も始まりしました。「みんなのみかん」のファイルに、ふれあい班のメンバーを書く紙があります。6年生が1年生に、5年生が2年生に、4年生が3年生に、書き方を丁寧に教えていました。紙に直接記入してあげている子もいました。特に、6年生は「あこがれの6年生」を意識しながら、顔合わせの会を一生懸命進行しました。5月26日(金)中休みには、初めてふれあい班で外遊びをしました。6年生は、わざわざ1年生を教室まで迎えに行ってから一緒に外に出ていました。

人は、様々な人とリアルに関わることで、他の人への思いやりの心が育ち、協力することのよさも学ぶのです。こうした体験が「共に生きる」社会の礎になるよう、様々な交流を進めていきます。